

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原中学校	校長	井上 一男	生徒指導主事	向井 大
-----	-----------	----	-------	--------	------

**取組事例名 『良いものにふれ、心を耕す』**

取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「協調性」	3	「主体性・積極性」	2	「高い志・自信」	1

**取組のねらい『キーワード：心を耕す』**

本校の学校教育目標は「一生懸命がすばらしい～夢と志を抱き、仲間とともに、生き抜く力を身に付けた子どもの育成～」である。しかし、様々な活動の中で周囲の目を気にして自己の力を出し切れなかったり、高い目標や志がなかったりするため、一生懸命に活動する生徒は少ない。また、仲間の頑張りを認めて応援する雰囲気もあまりない。このような現状から、自己の意識や学校の雰囲気を変えるために、一生懸命に何かに取り組んでいる人を見たり、高い目標や志を持っている人の話を聞いたりするなど良いものにふれ、心を耕す活動を取り入れた。



**取組の具体的内容『キーワード：良いものにふれる』**

①尾道北高等学校体育祭の応援合戦の見学

尾道北高等学校の体育祭の応援合戦は伝統があり、毎年盛り上がっている。高校生のレベルの高い応援合戦を間近で見ることができ、最後に尾道北高等学校の3年生からエールをいただいた。



②関西大学応援団のパフォーマンスと講話

パフォーマンスでは一生懸命に応援する姿や本校の校歌を全力で歌う姿を見せていただいた。講話では一生懸命に頑張ることのすばらしさや頑張れという言葉の重みについて熱く語っていただいた。

③広陵高等学校野球部の河端利晶選手の講話

河端選手は尾道市内の中学校出身であり、高い目標を持って頑張っている。講話では感謝の気持ちを持つことの大切さについて熱く語っていただいた。

**取組の課題・創意工夫『キーワード：身近な先輩』**

○課題

この取組では、本物を見て良いものにふれる段階で終わっているため、生徒が感じたことを生かして表現する場面をすぐに設定する方がより効果的な取組になる。

○創意工夫

可能な限り身近な人材を活用するようにした。講話等の内容が本校の課題とずれないように事前打ち合わせを丁寧に行った。



## 取組の成果（効果）『キーワード：心の変化』

《生徒の感想》

### ①尾道北高等学校体育祭の応援合戦の見学

- ・みんなが一生懸命でかっこよかった。これが「一致団結」というものだったと思った。来年度の体育大会は「一致団結」を意識して、みんなで一生懸命に頑張りたい。
- ・みんなが笑顔で本気で演技をしていた。手を抜いている人は1人もいなくて、みんなの声、動き、気持ちさがそろっていた。また、演技を見ている人も応援して盛り上げていた。これからの学校生活では、本気でやっている人が認められる雰囲気をつくりたい。

### ②関西大学応援団のパフォーマンスと講話

- ・本物の「一生懸命」を見ることができました。自分のため、人のために一生懸命になることのすばらしさを感じた。
- ・一生懸命に何かを頑張っている人に心から「頑張れ」と応援できる人になりたいと思った。
- ・応援団の人たちは自分たちの応援に誇りを持っていた。来年度の体育大会や文化祭では、全力で一生懸命に取り組んで誇りに思えるようにしたい。

## 今後の展開『キーワード：自己や学校の活動に生かす』

この取組は主に1・2年生を対象に行ったので、良いものにふれて感じたことを、来年度の日々の活動や体育大会・文化祭等の行事で生かすことができるかが重要である。そのため、各活動の前にこの取組の振り返りを行うとともに目指すべき姿を明確にして各活動にのぞませる。

## 他教科との関わり『キーワード：表現力・価値観・学びに向かう力』

国語科と関連して、共感したり想像したりする力や伝え合う力が身につくとともに、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。また、すべての教科に関連して、学びに向かう力を養うことができる。